

[B] 東アジアとの外交

中 国 関 係	朝 鮮 関 係
<p>618年 唐の建国 (隋を滅ぼし、都を長安におく)</p> <p>630年 最初の遣唐使 (皇帝に臣下の礼をとる朝貢形式) → 犬上御田綱を派遣 (614年に第4回遣隋使としても渡航) 目的=①唐の先進的な文物・制度の輸入・②日本の国際的地位の向上 ex. 唐の朝貢に際する新羅との席次争いで大伴古麻呂が抗議(753)</p> <p>8世紀 遣唐使の航路変更 (新羅との関係悪化が背景) 北路 → 南島路 → 南路 (東シナ海を横断する危険な航路) [遣唐使 (2隻→4隻 500名 「よつのおね」・19回任命→15回渡航)]</p> <p>702年 粟田真人……遣唐大使として入唐 (大宝律令の編纂に参加)</p> <p>遣唐使復活 山上憶良……遣唐少録として入唐 (歌人として『貧窮問答歌』が代表)</p> <p>717年 藤原宇合……遣唐副使として入唐 (藤原不比等の子で式家の祖)</p> <p>玄昉……帰国して橘諸兄政権を補佐した僧侶→筑紫観世音寺に左遷</p> <p>吉備真備……帰国して橘諸兄政権を補佐した地方豪族→のち右大臣となる</p> <p>阿倍仲麻呂……唐朝に仕えるが、帰国できず唐で客死 (唐名=朝衡) ★玄宗皇帝に重用され、李白・王維らの文人と交際</p> <p>井真成……帰国できず唐で客死 (中国の西安で墓誌が発見される)</p> <p>752年 藤原清河……帰国できず唐で客死 (藤原房前の子で遣唐大使として入唐)</p>	<p>660年 百済の滅亡 (唐・新羅の連合軍が滅ぼす)</p> <p>663年 白村江の戦い (唐・新羅の連合軍に大敗)</p> <p>668年 高句麗の滅亡 (唐・新羅の連合軍が滅ぼす)</p> <p>668年 新羅使の来日 (新羅は朝貢形式で日本と通交を結ぶ) 遣新羅使の派遣 (天武・持統朝に遣唐使の派遣はなし)</p> <p>676年 新羅の朝鮮半島統一 (唐の勢力を追い出す) →のち、新羅が対等な立場を主張したため緊張関係 759年には藤原仲麻呂が新羅への出兵を計画</p>
<p>804年 平安最初の遣唐使 (橘逸勢・空海・最澄らが渡航)</p> <p>838年 実質最後の遣唐使 (藤原常嗣・円仁らが渡航) 小野篁 (遣唐副使となるが、乗船を拒否したため隠岐に配流) 円仁 『入唐求法巡礼行記』 (円仁の渡航日記)</p> <p>894年 菅原道真 (遣唐大使) の建議で遣唐使廃止 (宇多天皇時) 廃止理由…①唐の衰退 ex. 安史の乱 (安祿山・史思明の乱) (755) ②航路の危険性・③新羅の海賊の活動・④派遣費用調達の高難 ⑤唐の民間商人の頻繁な来航 (公的な交渉を続ける必要がない) 廃止後…①日本人の海外渡航は原則として禁止 (僧侶の渡航は許可制) ex. 齋然 (983年に入宋した東大寺僧→宋版大藏経・釈迦像を持ち帰る) 寂照 (1003年に入宋した天台宗僧→天台宗疑問の答釈を得るが客死) 成尋 (1072年に入宋した天台宗僧→多くの経典を日本に送るが客死) ②唐・新羅の民間商船が博多津に来航 (遣唐使廃止後も中国の文物は流入) ★鴻臚館 (平安京・大宰府 (博多津) に設けられた外国使節の迎接施設)</p> <p>907年 唐滅亡→宋 (北宋) 建国 (960)</p>	<p>698年 渤海の建国 (沿海州の靺鞨族と高句麗遺民が建国) 唐・新羅との対抗関係から日本に通交を求める</p> <p>727年 渤海使の来日 (渤海が日本に派遣した外交使節) 日本からも遣渤海使を派遣するなど交易を行う ★渤海の宮都跡から同開珎が発見されている</p> <p>[渤海使滞在施設] 松原客院 (越前国敦賀津におかれた渤海使滞在施設) 能登客院 (能登国福浦津におかれた渤海使滞在施設)</p> <p>926年 渤海の滅亡 (契丹族に滅ぼされる→のち遼を建国) ★のち、遼も女真族に滅ぼされる→のち金を建国</p> <p>935年 新羅の滅亡→高麗の建国 (918) 唐・渤海・新羅 (途中で断交) 以外の国とは 国交を結ばず、私貿易 (民間商人の往来)</p>

[NOTE]